

平成二十三年度

# 奥出雲町消防団夏期総合訓練 第三回奥出雲町消防操法大会 開催

六月二十六日、三成公園野球場と人工芝ホッケー場横の多目的駐車場を会場に、消防団員約五百二十人が一堂に会し、夏期総合訓練と操法大会が開催されました。



規律正しい動作の部隊訓練

揮によって、団員が規律ある動作で行いました。

また、会場を多目的駐車場に移し行われた操法大会には、小型ポンプの部に十八チーム、ポンプ車の部に九チームが出場しました。

出場隊による入場行進の後、出場隊を代表し、布勢分団第一一部団員の赤名和弘さんが「消防精神にのっとり、住民の生命身体財産を守るため心身の鍛錬と操法技術の練磨に励み、その成果を遺憾なく発揮し、正々堂々と競技することを誓います」と力強く宣誓を行いました。各出場隊は、日頃の訓練の成果を発揮し、迅速かつ正確な動きで操法技術を競いました。

また、八月七日浜田市で開催される第五回島根県消防操法大会に出場する布勢分団と八川分団の操法披露も行われました。



力強い選手宣誓

## 操法大会成績

- 【小型ポンプの部】
  - 優勝 八川分団第五部（一五九点）
  - 準優勝 横田分団第三部（一五五点）
  - 第三位 鳥上分団第四部（一五二点）
- 【ポンプ車の部】
  - 優勝 横田分団第一部（二三八点）
  - 準優勝 布勢分団第一部（二三七点）
  - 第三位 八川分団第一部（二三六二点）
- 【総合の部】
  - 優勝 横田分団（一四三・〇点）

## 鳥上木炭銑工場の刀鍛冶 曾根寛さん 平成二十三年度新作名刀審査会で優秀賞

（財）日本美術刀剣保存協会（東京都）が主催する平成二十三年度新作名刀審査会（刀の部）で、日刀保たたら・鳥上木炭銑工場の刀鍛冶、曾根寛さんが優秀賞を受賞しました。

同審査会での受賞は、昨年の努力賞に続き二年連続。今年は、特賞の二人に次ぐ高い評価を得ました。

受賞作は、鎌倉時代の名刀「一文字」を手本にした刃渡

り約七十六センチの太刀。厳選した玉鋼を鍛錬して造った地金を材料にし、刀身に現れた鮮やかに丁字と呼ばれる花びら状の波紋様が特徴です。

曾根さんは「自分だけの力では造れない。今後、も精進を続け、見た人が感動するような刀を造りたい」と話されました。



作品を手にとらなる精進を誓う 曾根さん

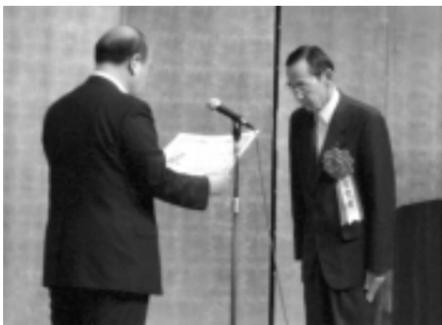
## 地域ICT利活用モデル事業 「地域情報化推進特別賞」受賞

奥出雲町が進める、テレビ電話を利用した高齢者見守り・支援活動が、中国地方の産官・学・のICT関係者で組織する、中国情報通信懇談会の「地域情報化推進特別賞」を受賞しました。

この受賞は、高齢者宅へのテレビ電話の設置だけでなく、人的サポート体制を充実させて、「いつも誰かとつながって

いる」ことを感じさせるシステムを構築し、高齢者等のICT利活用促進につなげるなど、地域におけるICT利活用の推進に多大な貢献をしたと評価されたものです。

六月一日、広島市内で行われた同懇談会総会の席上で行われた授賞式には、井上町長が出席し、福田督会長から表彰を受けました。



広島での授賞式の様子



## 奥出雲病院で消火技術大会開催

病院での消火技術の向上と、防火意識の高揚を目的に、奥出雲病院の「消火技術大会」が七月一日、病院北側駐車場で行われました。

この大会は、平成十四年から毎年行われ、今年で十回目の開催です。

今回は、部署ごとに組まれた七チームが出場。指揮者の指示で、消火器による消火、と消火栓からの放水による消火、電話での通報などを行い、その正確さとスピードを競いました。

出場者は、万が一の事態に活かそうと、真剣に取り組んでいました。

また、春日正己院長は「病院にはたくさんの患者様がいらっしゃる。そのためにも火災を起さないことはもちろんだが、もし火災が発生しても被害を最小限に留めるため、日頃から訓練していきたい」と話されました。

大会を通して、出場者はもちろん病院関係者全員が、防火意識を新たにしました。

## 地域医療を支える新たな柱に ドクターヘリ救助搬送訓練



訓練の後には、機体展示も行われ、本番さながらの訓練や実機を間近で見ることのできる貴重な機会となりました。

今後は、ドクターヘリの運航により、県内のどこに住んでいても必要な救急医療、高度医療が受けられ、救命率の向上や後遺症の減少などの効果が期待されます。



訓練の様子